

出所者 誰も見放さない

被害者家族が更生支援 再犯でも

妹を殺された被害者家族でありながら、10年にわたり刑務所や少年院から出所した人を雇い、向き合い続ける人がいる。大阪市淀川区に本店があるカンサイ建築工業の社長、草刈健太郎さん(50)は写真だ。始まりは成り行きだったが、自身の使命と捉えるようになった。「人を傷つけるより、人に感謝されて生きる喜びを感じてほしい」。脱走されても、再び罪を重ねられても、助けを求められれば何度でもその手をつかむ。

(藤井沙織)



職親プロジェクト
日本財団と関西の7企業で平成25年2月に発足。参加企業は今年1月末時点で37都道府県376社に拡大した。各企業がハローワークを通じて刑務所や少年院に求人票を出し、応募があれば企業側が面接に赴く。採用した場合、出所後の住居など生活と仕事に必要な支援も行い、採用にかかる経費は財団が助成する。

「これも縁やから、面倒見たのがきつかけだ。倒みたる。仕事していつらいつきは連絡して」
17年12月、妹の福子さん(当時25)が夫に殺された。被害者家族として、犯罪者の更生を支援することに抵抗はあつたが、草刈さんにプロジェクトへの協力を呼びかけ、少年院で出会った草刈さん(大阪府)に頼ってきた。
就労支援を始めたのは、創業の、中井政嗣さん(大阪府)に頼ってきた。中井さんとは、草刈さん(大阪府)に頼ってきた。中井さんとは、草刈さん(大阪府)に頼ってきた。
就労支援を始めたのは、創業の、中井政嗣さん(大阪府)に頼ってきた。中井さんとは、草刈さん(大阪府)に頼ってきた。
就労支援を始めたのは、創業の、中井政嗣さん(大阪府)に頼ってきた。中井さんとは、草刈さん(大阪府)に頼ってきた。



草刈さんを追ったドキュメンタリー映画「おまえの親になつたで」のワンシーン。少年院で面接した男性を「頑張れ」と抱き寄せた ©テレビ大阪

草刈さんの奮闘を記録したドキュメンタリー映画「おまえの親になつたで」が第七芸術劇場(大阪市淀川区)で上演されている。監督は草刈さんを10年間にわたり取材したテレビ大阪報道部ディレクター、北岸良枝さん。3月8日まで公開予定。

採用後、姿を消すケースは後を絶たず、その後、再び罪を犯す人も。当初は裏切られたという思いを抱いたが、次第に更生の途中的なのだと受け止めるようになった。
再び罪を犯せば身元引受人にもなる。プロジェクトの助成対象に入らない、すでに出所した人も雇用している。姿を消した人から数カ月後に連絡がくることもある。お金がない、仕事がない。いなくなつたことは責めず、食事をともにする。働きたいなら雇う。そこまで向き合う理由を尋ねると「しゃーないわな」と笑い、「自分も周りの人に支えられて生きてきた。ご縁で一度は携わつた人を、見放すことはできない。一人でも多く、ちょっとした幸せな生き方をしてほしい」と話した。